



2022年夏・69号

信条・世に媚びず・枠にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://lifecrossing.ne.jp/>
E-mail : info@lifecrossing.ne.jp

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・
自分のことを書いています。

プーチンさん！人間を殺しまくって嬉しいか？
ウクライナの支援が世界の自由と平和を守る
吉田 進…2

僕は毎日サンタさん
東京都 奥寺 大輔…3

人々の小景②① 辻邦生-銀杏散りやまず-
鎌倉 市川 隼…4

憲法と改憲を考えるシリーズ⑩
憲法9条の世界史的意義
一橋大・東京大元教員 油井 大三郎…5

ゼレンスキーウクライナ大統領は間違っていた！
東京 三田 栄考…6

ウクライナ侵略を利用した改憲は許さない
大阪平和委員会事務局長 上羽 治雄…7

ポストコロナの人類の生き方(下)
人生とは、素敵な地球人になる
終わりのない練習である。
北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋…8/9

議員インターンシップの取り組み
若者の政治参画へ
東京 江東区議会議員 鈴木 綾子…10

超不平等は悪だ！大金持ちは悪だ！
大阪 馬場 正雄…11

永久に葬られた？
ロシア・ドイツ間のパイプライン
ノルドストリーム2
ドイツ在住 後藤 昌三…12

ロシア・ウクライナ戦争中に国際映画を通じて
鉄のカーテンを開ける挑戦⑨
映画監督 増山 麗奈…13

「ひとりでやらなくてもいい」
市民として育つ場を提供するスペインの教育
工藤 律子（ジャーナリスト）…14

口紅 石居 恵子…15

余録／編集後記……………15

ウクライナ問題を考える
「友愛外交」の発動を
（勸東アジア共同体研究所理事長 鳩山 友紀夫…16



サーフィンの世界的メッカ・ゴールドコースト（オーストラリア）

プーチンさん！人間を殺しまくって嬉しいか？

ウクライナの支援が世界の自由と平和を守る

吉田 進

桜は散って「目に青葉／山ほととぎす初鰹」の季節となった。人々は、終りのないコロナトンネルの中でモヤモヤ。しかも物価高だ。5月の連休では多くが「待つてました」とばかりの憂さばらしの深呼吸となったよう。

ところが突然、2月24日に始まった露軍のウクライナ侵攻が火を吹き目覚めた。ウクライナの各地はガレキの山。道路には焦茶色の露戦車や車の残骸が放置されたままで、所かまわずのロシアの攻撃で、多くの市民が死傷。500万人を超える人々が他国へ避難。今、ウクライナ南東部のマリウポリのアゾフスタリ製鉄所では、露軍のミサイル攻撃でウクライナ最強軍との死闘が続いている。

プーチンは、各国や国連の停戦にも頑として応じず、国内外にウソ八百のプロパガンダで、違法で残虐な非戦闘員のジェノサイド（大量虐殺）を行って恥じない。たとえばこうだ。病院や学校、また避難所を空爆。そして、大量殺人を隠すため遺体焼却車を導入、多くの墓を掘ったりしている。

一方、拷問、殺人をくり返し、後手にしげられ、額を撃ち抜かれた遺体もあったという。

その非道さへの抗議に対し、露軍は「ウクライナは非戦闘員を楯にしている」「自ら残虐な行爲を行い、各国の同情を買う自作自演」といつて憚らない。その様子はTVや人工衛星からの写真で、多くが知っている。正に墓穴を掘るといえるのはこのこと、知らぬが仏はロシア人だけかも。九死に一生を得た市民の悲痛な涙があった。中でも目に涙をためた幼子（わかたご）が「死ぬのいや」というのには参った。その声をプーチンへ届けなアカン。

矛盾だらけの世に「思う」

時は「去年今年貫く棒の如きもの」（子規）だが、「世の中は曲りくねった暴れ川」だ。

かつて、中国建国の父・毛沢東は、「矛盾の止揚」（アウフヘーベン）を説いたが、希望と期待を集めた社会主義国の今はどうか？ ロシア、中国、北朝鮮はみな自由を奪う独裁、覇権国家。ロシアは今、国連や各国の説得も聞かず、ウクライナへ侵攻している。

ところで、かつての政治矛盾の一例を再記してみよう（当誌65号）。

昭和21年6月20日の第90議会で戦争放棄と自衛権が問題

となった。共産党の野坂参三の「戦争には不正な戦争と正しい戦争がある。憲法には戦争一般ではなく侵略戦争の放棄を明記すべきである」に対し吉田首相は、「過去の戦争の多くは国家防衛の名においておこなわれている。故に正当防衛権を認めることは、やがて戦争を誘発すること。お説の如きは有害無益」と答弁した。時代が変われば説も変わる。今は全く、その逆ではないか。

当時問題になったのは「正当防衛の戦争は許される」という改憲論だった。そして2回の世界大戦の反省から「国連」が誕生した。戦勝国の米・英・ソ・仏・中5カ国は拒否権という特



4月4日の毎日新聞より

権をもつ常任理事国となったが、その真意は「先ず大国は武器を捨て、戦争をやめよう。紛争は話し合いで」ということであつた。だが今、ロシアはその禁を破り、覇権国となって世界の脅威となつてゐる。まさに世は「くるくる回る矛盾ぐるま」だ。

「話し合いで」を枕言葉に「平和」を論ずる人が多いが、今回の如く各国・各人の「話し合いで妥結」を求めたのに「馬の耳に念仏」で頑として「否」だったプーチン。それならどうするかが、今まさに問われているのでは。

9条をめぐる談義。「他国が攻めてきたら、竹やりで闘うんか」に対し、「戦争放棄したわが国にどこも攻めては来ん」などもあったが、何ともアホらしい。起こってくる事実は具体的なのに、抽象論では太刀打ちできない。日本はウクライナを支援する国々と共に、平和を求める国々と連携するに尽きる。今後、矛盾を止揚し、それを憲法に生かしたい。

正当防衛の武器まで放棄して夢を見ている間に、こつちが殺される。ジャパニーズグランパも「死ぬのいやや」と独りごと。

僕は毎日 サンタさん

東京都 奥寺 大輔

サンデル教授の問い

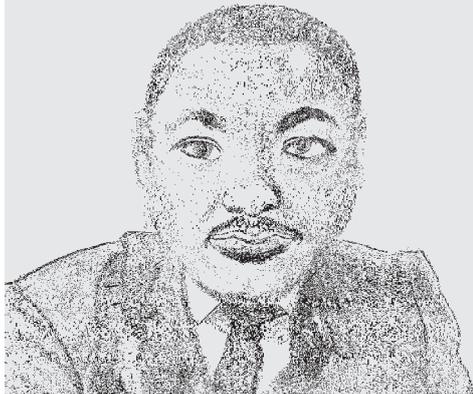
All labor has dignity
(すべての労働には尊厳がある) キング牧師が遺した言葉です。今年、新著を出版したハーバード大学のマイケル・サンデル教授(以下サンデル教授)が自著について語るときに引用していました。残念ながら、世の中には尊敬や評価を受けやすい仕事とそうでない仕事があると思います。例えば医師や会社の社長とアルバイトやパート、どちらが尊敬されやすいか聞

かれたら大多数の人は前者であると答えるのではないでしょう。尊敬されやすい仕事に就けるかどうかは本人の能力や努力次第であると多くの人は考えています。しかし、それは本人の努力ではどうにもできないことだったら? ほとんどのことが環境や遺伝で決まってしまうことであつたら? どういった職業に就けるかは収入に直結します。高収入の職業に就けるかどうか環境や遺伝で決まってしまうとしたら、日本に存在する貧困は本当に本人だけの責任だといえるか? サンデル教授の新著はこう

いった問いを私たちに投げかけます。行き過ぎた能力至上主義や自己責任論に警鐘を鳴らしているのです。私は現在、軽貨物の配達の仕事をしていきます。注目されたり、尊敬されたりする仕事では

ないでしょう。台風の日も配達をしなければならなかったり、13時間近く休憩をとる暇もなく働かないといけない日があつたりして労働環境に疑問をもたない日はありません。しかしながら真夏の暑い日にお客様からお茶を頂いたり、みんなの生活を支えているのだという自負を持つと、自分の仕事もそう捨てたものではないと考えることもあります。それだけではなく、サンデル教授の本やキング牧師の言葉と出会ったことで自分の仕事にも尊厳があるのだと考えられるようになりました。

All labor has
dignity.



キング牧師

活する若者も多くいます。昨年の10月31日、京王線で無差別刺殺事件が発生しました。ホアキンフェニックス主演のアメリカ映画「ジョーカー」がヴェネツィア国際映画祭で最高賞を獲得して大きな話題になりましたが、日本にも「ジョーカー」が生まれてしまいました。彼を特別な人間と考えずに、日本社会全体が生み出したものと考えた方が解決に近付くのではないのでしょうか?

職業や能力は

その人の価値と同じではない

行

き過ぎた能力至上主義と自己責任論により一生這い上がれないと思ひ込んでしまう若者も少なくありません。日の目を見ることなく、将来に希望が持てない若者たちはやり場のない怒りを抱え、発散する術を持たずにいます。これは大きな社会問題だと思ひます。これを解決するには、サンデル教授の考え方を参考にしてみると、どういった職業に就いているか、能力が高いかどうかという点と、その人の価値はイコールではないという認識を

多くの人が持つことにあるのではないのでしょうか?

人

生の本質が本当に仕事にあるのか疑問に感じざるを得ません。仕事をする年齢に達する前に亡くなった人の人生には価値がなかったことになるのでしょうか? 高齢になったり、あるいは病気になるって働けない人の人生には価値がないことになるのでしょうか? みんな、誰もが職業人である前にただの人です。誰かの親であり、誰かの子であり、誰かの恋人であり、誰かの友人であるのです。能力が高いことに価値があるのではなく、その人がそこに存在すること、それ自体に価値があるという認識を持つことができたとしたら、少しは社会に変化が生まれるのではないのでしょうか。

キング牧師はこういふ言葉も遺しています。「考えてみると、私たちのゴミを集める人は医者と同じくらい大切で、私には、どのような人にも、どのような職業にも尊厳があるのだということを忘れずに毎日、暮らしていきたいと考えています。サンタクローズのように荷物を運びながら。

人の小景

連載
第21回

辻 邦 生

銀杏散りやまず

鎌倉在住 市川 隼

辻邦生は、小説家、仏文学者として紹介されるが、35年間も教壇に立ち、学習院大学教授として、仏文学科（現仏語圏文化学科）で15年間も講じ、パリ第三大学でも、日本文化・文学について講じた研究者でもあった。東京駒込西方町に1925年9月24日に生まれ、愛した信濃の軽井沢で1999年7月29日に亡くなったが、更なる作品が期待されていた、惜しまれる73歳での逝去だった。内外を題材にした多くの小説や西欧についての随筆、評論等を著し、亡命ロシア人の画家を題材にした『廻廊にて』で1963

年近代文学賞、伊宣教師の目を通して信長を描いた『安土往還記』で1969年芸術選奨新人賞、排他的な一神教に寛容を求めたローマ皇帝を描いた『背教者ユリアヌス』で1973年毎日芸術賞、『西行花伝』で、1995年谷崎潤一郎賞等を受賞し、芸術院会員にも選ばれた。

信濃追分で執筆活動していた堀辰雄に私淑し、藤村や赤彦の影響も有り、信濃の旧制松本高等学校に入学したのが1944年であり、信州大学卒業後、東京大学仏文科に入



辻邦生 (HP)

学して卒論にスタンダールを選び、1952年に卒業した後大学院まで進み、渡辺一夫に師事した。同じく渡辺に師事した9歳若い大江健三郎が東大仏文に入学したのが1956年であり、大学での接点は薄かったようだ。辻は、旧制松本高等学校時代、終生の友となる北杜夫と知り合い、トーマス・マンの研究者と知

られている望月市恵の薫陶を受けた。対談『若き日と文学』に於いて、北が1969年に在仏の辻の処に出掛け、二人でスイスのトーマス・マンの墓詣りに出掛けた思い出を語り、マンに魅かれ、恩師



辻邦生著作

を慕う姿が印象的だが、この対談で二人は奔放に若き日を語り、北は、本人が入学当初は軍国青年だった事を吐露し、辻は戦争の行末を冷静に見据えており、辻が意識的に理科

乙類に入学し、戦後文化乙類に転科したと北が語り、文学においても、辻の方が先輩だったと述べている。辻は、当時から、詩的な精神と科学的な精神の対立・相克に興味を抱いていたと述べ、その後の辻の文学の姿を指し示しているようだ。文学では後輩だった北の作品が埴谷雄高の目に留まり、北の紹介で、辻の『城』が、埴谷が同人だった『近代文学』に掲載された。

辻は独文学でなく仏文学に方向を定め、深くフランスと交わる事になり、何度もパリに出掛けるが、最初は1957年から1961年まで、美術史研究家の妻佐保子と共にした留学であり、1980年から1981年には、パリ第三大学で日本文化や文学について教壇に立った。1968年から1971年に掛けて、信長や秀吉の興亡を背景に、角倉素庵、本阿弥光悦、俵屋宗達が関わった嵯峨本に纏わる話を、行替えない文体で纏めたのが『嵯峨野明月記』（恩師古川久に捧げられている）であり、同時期に『背教者ユリアヌス』を書き始め、両作品の「対象（もの）」を映像化（イメージ）する事に

集中する」為に悪戦苦闘していた心情を、この時期の1968年に一年程パリに滞在し乍ら記した『モンマルトル日記』に綴っている。

新聞人で、薩摩琵琶の演奏家でもあり、誕生日の9月21日を邦生（くににお）と命名して呉れた父が逝去した時、父の思い出や辻の本籍にある山梨県春日居町国府（現笛吹市）の医家であった実家について綴ったのが『銀杏散りやまず』だった。辻にしては珍しく身の回りの話を語り、文学や研究に没頭し、自分を育ててくれた、病に倒れた父に時間が割けなかった事を悔やむ文章を印している。辻がパリ大学で学生に接した時、さだまさしの詩を学生に紹介したと語っているが、この著でも、父に結び付けて、さだの『生々流転』や『防人の詩』の詩に幾度も触れている。さだも、辻に応え、戦死した伯父を想い出しながら、『銀杏散りやまず』と題した歌で、『銀杏 散りやまず 秋風 紅葉 舞いやまず 我が涙 あふれてやまず 銀杏 散りやまず』と唄っているが、それは、辻邦生に奉げられた詩でもあった。

憲法9条の

世界史的意義

油井 大三郎

(二橋大・東京大元教員)



孫たちと鈴木義男氏（昭和24年・左から荘一郎、泰男、大三郎、達二郎）

名した不戦条約の第1条の中

I はじめに
憲法改悪の議論が再び頭をもたげてきた昨今だけに改めて9条の世界史的意義を確認することが極めて大切だと思います。改憲論者はよく



パリ不戦条約、ケロッグ・ブリアン協定の締結式（1928年）

現行憲法が米国から「押し付けられたもので、その狙いは戦争放棄や戦力不保

持によって日本を弱体化することにあったとして、極めて民族主義的な議論を展開してきました。しかし、9条の条文の中にある「国権の発動たる戦争」を放棄するという表現は、1928年に日本も署

う規定と酷似しており、9条は第一次世界大戦以来の世界史的な平和思想の発展という大きな流れの中で考えるべき問題だと思えます。

II 第一次世界大戦後の世界平和思想

第一次世界大戦は欧州を主たる戦場として、交戦各国の総力戦として4年余も戦われたため、膨大な犠牲者を出し、兵士854万人、民間人680万人、合計1534万人もの犠牲者を出しました。とくに膨大な民間人の犠牲者がでたことは、それまでの戦争にはない新しい特徴で、大きなショックをヨーロッパの交戦各国に与えました。それ

は、総力戦段階の戦争では、軍需産業への攻撃や銃後の国民の戦意への打撃なども狙われるため、民間人の犠牲者が急増したのであり、交戦国民の間では「戦争は割にあわない」という意識が芽生え始めました。

その結果、西欧ではオーストリアの外交官であったクルデンホーフ・カレルギーなどによって「ヨーロッパ合衆国」建設運動が発生しました。米国では、ウィルソン大統領が紛争の平和的な解決機関として構想した国際連盟への加盟を共和党優位の米国議会が拒否しただけに、それに代わるものとして「戦争違法化運動」が登場しました（詳しくは拙著『避けられた戦争』ちくま新書、2020年参照）。この運動が米国政府

に影響を与えた結果が不戦条約となったのでした。

しかし、日本は第一次世界大戦で極めて少ない犠牲の下に中国の山東利権や南洋諸島の利権を獲得したため、戦争によって領土や市場の拡大を図ることは正当とする「正戦論」を継続しました。その典型が、後の日中戦争期に首相

となる近衛文磨が1918年末に書いた「英米流の平和主義を排す」という論文でした。これは、第一次世界大戦の勃発で列強の関心が欧州に向いている間に日本が中国に対して「21ヶ条」を要求したのに対して米国が強く反発したことに由来していました。

それでも、大正デモクラシイのオピニオン・リーダーであった吉野作造は国際連盟の創設などを「国際民主主義の到来」と高く評価しました。

III 第二次世界大戦後の平和思想の展開と憲法9条

第一次世界大戦後の平和思想は、敗戦国ドイツでの極端なナシヨナリズムの高揚や日本における軍部独裁政権の成立によって弱体化され、第二次世界大戦が文字通り欧州とアジアを戦場として勃発し、

その結果、今度の犠牲者は兵士1693万人、民間人3432万人、合計5125万人と、第一次大戦の3倍にも達しました。当然、再度の世界大戦を防止する方策の希求が活発化し、国際連合憲章の前身では「共同の利益の場合を除く他は武力を用いない」と規定されました。

このように憲法9条は、悲惨な世界大戦を二度までも経験した人類の悲痛な反省の上に導入されたものでした。国会で憲法草案の審議に関わった社会党の鈴木義男は、GHQ案にはなかった戦争放棄を意義づける文面（日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し）の追加を提案しましたが、彼は第一次世界大戦直後のドイツに留学し、ドイツにおける戦争被害の甚大さを目撃し、国際法の新しい発達に期待した人物でした。鈴木義男は筆者にとっては母方の祖父にあたる人物ですが、私の幼小期には「すべてを他のために為し、何物も己の為には為さず」というペスタロッチの墓碑銘の言葉をよく聞かされていたのを覚えています。

鈴木義男が制定に尽力した憲法25条の人権の項目

憲法第25条 第一項 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する

第二項 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない

ゼレンスキーウクライナ大統領は 間違っていた！

東京 三田 栄考

私は一市民で専門家ではないので外的な意見になるかも知れないが敢えて私見を述べさせていただく。プーチン大統領はヒトラーに匹敵するほどの汚名を歴史上ロシアとロシア国民に課すことになった。バイデン大統領の『プーチン体制の変換を求める』と

踏み込み過ぎた発言があったが、世界の大半の人々がせめてプーチンを失脚させたいと願っている。

歴史は同時進行ができないので断定できないが、結果論としてゼレンスキーは政治家として判断を間違っていたのではないかと思う。

このような悲惨な結果が良かったか？それともベラルーシのようにロシアの属国が良かったか？私は心苦しいが後者ではなかったかと思う。2割以上の国民が自宅を追われ、1割以上の人々が国外に脱出せざるを得ない状態。(幾ら支援があつても自分の国を捨てて離散した家族が異国で暮らすのは不幸であり生活は苦しい)軍人・民間人を含めてどれだけ多くの人々が亡くなったか？街が家がどれだけ多く破壊され復旧には気の遠くなる資金、資材が

必要とされることか。復興するのにどれだけの歳月が必要か？

ゼレンスキー大統領は愛国心を捨てて早い時期に降伏すべきだった。

そして捲土重来を期すべきだった。その方が遥かにウクライナ国民にとって被害は少なかった。世界人類にとつても。ロシア国民にとつても。

《泣く子と地頭には勝てぬ》とは古今東西の格言だ。まだまだ世界の民主主義は未熟だ。残念ながら狂気の核大国には一時的に大幅譲歩が賢明ということだ。現代世界の現状を

考えるなら、核を初め様々な兵器を有する軍事大国であるのを認識して彼は対応すべきではなかったか？残念ながら我々は次のことを共通に冷静に認識している。ロシアが軍事的に敗北することはない。

プーチンがやめようと思つた時にしか戦争は終わらない、ロシアを下手に追い込むと生物・化学・核兵器に手を染めかねない。戦争犯罪人を引き出して裁くこともできない。

プーチン体制を、ロシア国民の意識を覆すのはほぼ不可能

であることを智者は理解している。残念ながら西欧日本型民主主義がこの戦争で勝つことができないのだ。精々早く停戦という引き分けに持ち込むくらいだ。我々日本人は

ロシアとウクライナの長年に渡る関係を理解していない、認識していない。しかし、当事者のゼレンスキー大統領は知る立場にあつたし、認識していたらう。NATOやEUへの加盟をもっと早く巧みに

実現できなかったのであれば、別な選択をすべきではなかったか？米国はウクライナ侵攻直前に国境に軍事車両が集結しその数20万とまで言い当てた。しかし、ロシアの侵略の現実を感情的に流されて感じてはいけない。これ幸いと愛国心を煽って軍事には兵器をと戦争拡大の道を進もうとする輩がいる。北海道の軍事力強化の口実にしたがる



急造りの墓地

が、ロシアが日本に侵攻する

理由もメリットも能力もないのに。ロシア軍の虐殺を糾弾するのは当然だ。戦争とはそういうものだ。明日死ぬかも知れない者が、いつ殺されるかもしれないという恐怖で人間性を失うのも許されるべきではないが起りがちだ。だからこそ如何なる理由でも戦争はいけない。軍事力でなく、平和外交の努力をすべきだ。しかも、権力者は世論を興せるから始末に悪い。今でもプーチンの支持率が80%前後というのは権力者の世論操作の結果だ。SNSとか言つてもそれを遮断したり、政府に反対すれば投獄するなどの方法があるからお手上げだ。

人類がこのウクライナ侵攻の危機を冷静沈着に対応することを私は期待している。確かに我々は今、核の抑止力をも実感している。しかし、抑止故にその危うさ、見込み違いの時の恐ろしさをひしひしと感じるべきだ。そして核抑止にいつまでも頼るべきでない。頼れない。核廃棄の恒久平和だけが人類を救える。それには道は如何に遠くても世界連邦をめざすべきではないだろうか？



銃痕を残す国旗と破壊された建物

ウクライナ侵略を 利用した改憲は 許さない

大阪平和委員会事務局長 上羽 治雄

ヨーロッパの穀倉
ウクライナの国旗は上が大空を表す青、下が大地（麦畑）を表す黄の二色旗です。この国旗の色が示すように、大空のもとに広がるウクライナは「ヨーロッパの穀倉」といわれ、「21世紀に世界で食料危機が起こった場合には、それを救う国のひとつ」（物語 ウクライナの歴史―ヨーロッパ最後の大国―中公新書）と言われています。

ロシアのウクライナ侵略

2月24日のウクライナに対しロシアが国連憲章を無視して侵略を開始しました。この軍事侵略は、世界の平和と安全を脅かし、国際秩序の根幹を揺るがす行為であり、絶対に容認できません。しかもロシアは、核兵器使用の威嚇を公然とふりかざしてこの戦争をおすすめています。

通常兵器に対する攻撃に対しても核兵器を使用するという「核ドクトリン」を持つプーチン大統領が、戦争開始後に核部隊を戦闘態勢におくことを命じたことは重大です。これは、核兵器禁止条約に違反する、人類



大阪ロシア総領事館前で抗議行動

に対する脅迫といふべきものです。加えてロシアの攻撃は、住宅地や学校、病院などへの無差別攻撃や原子力施設への攻撃、残虐兵器使用など、ことごとく国際人道法に

違反する野蛮なものとなっています。これを一刻も早く中止させ、これ以上の非人道的な被害を阻止することは、喫緊の課題となっています。

反戦運動の拡大

ロシアの侵略に対し、世界各国で反戦運動と「侵略止めよ」、「国連憲章守れ」の声が急速に広がるなか、国連加盟国の73%、141カ国が賛成したロシア非難決議は、ロシアの行為を国連憲章違反の侵略と断罪し、即時無条件完全撤退を要求しました。かつてのベトナム戦争とイラク戦争に対して国連が非難決議を上げなかったことからすると、歴史の進歩と言わなければなりません。ロシアに対する経済制裁も、最惠国待遇の撤廃や国際決済システムからのロシア大手銀行の排除など、各国が厳しい措置を打ち出し、ロシアの孤立は深まるばかりです。ロシア国内でも、厳しい言論統制と弾圧にもかかわらず、勇気ある反戦行動がく

総領事館前で抗議

中央区谷町6丁目に事務所のある私たち大阪平和委員会はいち早く府民に呼びかけ、2月28日在大阪ロシア総領事館前で「ロシアはウクライナから撤退を」の横断幕をかかげ130人の参加でサイレン

ト・スタンディングを実施し、ロシア軍の攻撃で亡くなったウクライナの人々に黙祷をささげました。この行動はテレビを含め大手マスコミでも報道されました。

参院選で政治転換を

岸田政権はロシアのウクライナ侵略に対し、憲法9条をもつ戦争被爆国として「核兵器を使うな」「紛争の平和的解決を」の声をあげるべきです。ところが岸田政権は、その補完勢力（維新など）と一緒にこの事態を利用して自民党総裁任期中に「憲法改正」の実現、「敵基地攻撃能力」保有の戦略文書への明記、従来対GDP比1%程度だった「防衛費」を2%以上にすることを表明しています。コロナ禍のなか、こんな悪政を許さず憲法を生かし、平和と民主主義、いのちと暮らし、人間の尊厳を守ることを最優先する政治への転換を求めましょう。その転換のチャンスは夏の参院選です。ピンチをチャンスに変えることができるか否かは私たち市民の力次第です。共に頑張りましょう！

若者9条改憲反対6割 大阪平和委員会青年学生部・青年協議会は5月3日天王寺駅前で16人の参加で7回目の「若者100人に聞く憲法アンケート」を実施。12歳～32歳の101人（平均18歳）が回答。以下がその結果—9条は変えるべきか？「変えるべきでない」60%、「変えるべきだ」12%、「わからない」28%、日本は核兵器を持つべきだ？「持つべきでない」86%、「持つべきだ」14%



図1 我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか
ポール・ゴーガン 1897年

前号のあらすじ

新型コロナウイルス感染症のパンデミック下にある人類には、新しい哲学が必要である。文明の起源は、文字の発明にある。地球上のすべての生物は、過去の生物が使った原子・分子を使って現世を生きており、死ぬと再度、原子・分子となって地球環境に戻り、未来の全ての生物の一部となって蘇る。地球上の全ての生命は、地球環境のパラサ

ポストコロナの人類の生き方(下)

人生とは、素敵な地球人になる終わりのない練習である。

北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋

イトである。

そして、2022年2月24日、ロシアのウクライナへの侵攻が始まり、今、世界は戦争の渦中にある。戦争に突き進んでいる指導者達に、以下のメッセージを届けたい。

地球は時空を超えた高次元

巨大環境生命体である

地球上の生命現象とは、太陽エネルギーを基盤にして、水と二酸化炭素とミネラル群

が織りなす壮大な物質循環の世界と捉えることができる。生命現象は、原子論的には、化学反応として表現できる。化学反応とは、複数の原子の電子雲の間で起こる電子のエネルギー準位の変化として説明できる。電子雲の体積は、原子核に比べて1兆〜千兆倍も大きい。その領域でめまぐるしく動いている電子の大きさと数を考えると、この電子雲は、大きな空間とみなされる。その存在が、多種多様な化学反応を引き起こす所以である。この電子雲の中の電子の挙動は、およそ100年前に発見された量子力学という新しい学問で説明されつつあり、電子雲の中には、生命科学を始めとする科学技術の限らない可能性が隠されている。換言すれば、将来の人類社会には、大いなるフロンティアが約束されていると断言して良いだろう。

「我々は何処から来たのか、我々は何者か、我々はどこへゆくのか？」の問いに對しては、「我々は環境から生まれ、環境に戻る。我々は、時空を超えて、地球上の全ての生物の中を循環している。」と答えることができる。

る。生物の死とは、絶望的な奈落の淵に落ちて行くことではなく、この地球上で、常に新しく環境の一部として生まれ変わることである。

このことを宇宙の視野でまとめると、地球上の生命世界は、人類をはじめとする全ての動物、植物、微生物、さらには大気、大地、大洋の環境を含めて、時空を超えた高次元巨大環境生命体(宇宙船地球号)と考えることができる。

46億年前に太陽系が誕生してから、地球上では8億年の化学進化の時代があり、その間に、生命の基になるアミノ酸・糖・脂質・塩基といった化学物質が作られ、38億年前に、地球上に奇跡の生命が誕生した。その生命の誕生の謎は、まだ科学的に解明されていない。生命が誕生したこと自体、奇跡のように重大な出来事であったが、それ以上に特筆すべきは、地球環境が、生命を育み継続して子孫を増やせる豊穡な環境になったことである。地球環境は、長い産みの苦しみの後、新しい生命を誕生させ、様々な環境変化に耐え、豊かな生命世界を

構築して、現在の生物多様性に彩られた巨大環境生命体となった。巨大生命体の誕生を、地球環境に生命が芽生えた時とするならば、その年齢は、38億歳ということになる。巨大環境生命体は、38億年という長い年月を生き抜いて、今、宇宙空間に青い惑星となって浮かんでいる。

巨大環境生命体の頭脳としての人類の文明と学問の階層性

この巨大環境生命体の頭脳はどのようなものだろうか。人類は、およそ1万年前に文字を発明し、文明を誕生させて、膨大な量の科学的知識を獲得した。この科学的知識は、物理学、化学、生物学、心理学という基幹学問の相互関係を整理することにより、図3に示す学問の階層性という概念で表現することができる⁽¹⁾。これを要約すると、心理学は生物学によって支えら



アポロから見た地球の出生
the Apollo spacecraft, Dec. 24, 1968)

れ、生物学は化学によって支えられ、化学は物理学によって支えられている。これは、近年、著しく細分化し、また先鋭化している学問領域を、俯瞰的に、また系統的に理解するための方策の一つである。この概念の中で、最も重要な考え方は、形而上学に代表される精神活動も含めて全ての生命現象は、最終的に物理法則で説明されるということである。人の精神が関与する領域、例えば文学・数学・芸術・宗教・信仰・喜怒哀楽なども、最終的には化学反応として説明される筈である。巨大環境生命体の頭脳は、この学問の階層性として纏めた情報ネットワークと考えて良いだろう。このネットワークは、過去のすべての人類の努力の賜物であり、現在も凄まじい勢いで成長しつつある。図の中で宇宙生命哲学を心理学の上に位置付けたのは、この哲学が、物理学、化学、生物学、心理学という基幹学問の中心軸として、文明社会に対する指針の役割を担っていると考えたからである。ピラミッドの先端に位置するX文明は、まさにこれからのポストコロナの世の中で人類が

目指すべき文明である。全ての人類は、宇宙生命哲学の理念に則り、新しい文明世界を切り開いて行く絶好の機会に遭遇していると考えたい。全ての生物の頂点に立っている人類は、生物の代表者として、この宇宙船の羅針盤の役割を担っている。特に、科学、教育、政治、経済、宗教に関わる人たちは、この学問の階層性について、深く理解して欲しい。

素敵な地球人になる 終わりのない練習

このような立場にある人類は、どのようにに人生を送ったら良いのだろうか。人間の一生は、素敵な地球人になる終わりのない練習を続けていると考えよう。素敵な地球人の定義は、人それぞれで違っていて良いと思う。人生は、それぞれの人が、自分の目指す素敵な地球人像を、生涯かけて探し続けることではないか。急がず、休まず、ゆっくりと、着実に、一步、一步、自分のペースで人生を刻んでゆく。その過程で、人と交流し、学び、

互いに助け合いながら、自分の人生を思う存分に楽しむことが出来るだろう。練習だから失敗も許される。失敗しても、失敗しても、再挑戦が許される。この哲学の、最大の特徴の1つである。さて、素敵な地球人になるための心得を列記してみよう。常に、宇宙から地球を観る感覚で思索する。物事を、科

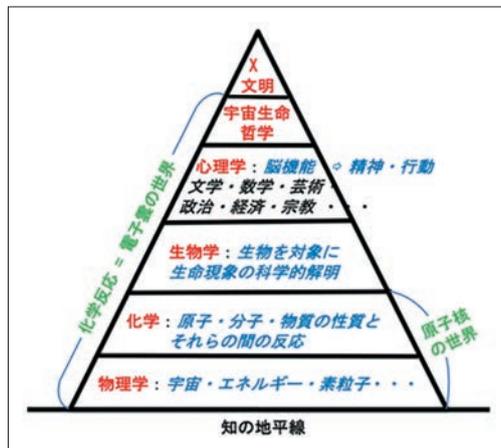


図3 学問の階層性

学的に考える。原子論に基づいて考える。生命にとって最も大切なものは地球環境である。地球が自分の家だと思っ

る。欲張らない。そこそこの生活に幸せを見つけた習慣をつける。仕事で得られた富は、地球人のために使うようにする。日常生活の中で、仕事、家庭、趣味、社会奉仕活動を大切に

現時点で、私は、次のような人を「素敵な地球人」だと考えている

素敵な地球人は、国家・人種・民族・宗教・性別・貧富の差・文化・文明の壁を越えて仲良くし、あらゆる人権を尊重し、民族の多様性、生物の多様性を尊重し、あらゆる生物を大切に

この度のコロナ禍で、またウクライナで、多くの素敵な地球人が、志半ばでこの世を去った。過酷な医療現場で病魔に襲われ、壮絶な人生を全うされた医療従事者も数知れない。残されたご遺族や友人の心の中に、その神々しい姿が未長く生き続けて、残りの

人生を生き抜くための限りない力となることを願っている。そして、我々は、地球環境の中で循環していることを、身を持って感じ取ることが出来る。

世界が目にした東京五輪2020と北京冬季五輪2022の開会式で、奇しくもヨージョンの「イマジン」が世界を一つに結んだ。「宇宙生命哲学」の精神に繋がっている。

想像してごらん／天国も地獄もない／国も宗教もない／飢えや争いごともなく／みんな一つの世界で／一緒に生きている／夢じゃないよ／みんながその気になれば／すぐ実現する

私も、本当に、そう思っている。今、地球上で戦争に突き進んでいる指導者たちに、心からこのメッセージを届けたい。

(Itoh T. Arch Environ Sci & Environ Toxicol 4: 132)



図2 生命の惑星、("Earthrise" by Bill Anders from the Apollo 8 mission)

議員インターンシップの取り組み

若者の政治参画へ

東京 江東区議会議員 鈴木 綾子



18歳選挙権の開始と若者の投票率

2016年に選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられ、6年が経つが、「若者が選挙に行かない」若者の低投票率は依然として続いている。一般的に、選挙の投票率は若年層が低く、高齢者が高い。

2021年10月に行われた第49回衆議院議員総選挙の年別投票率では、10歳代が43%、20歳代が37%であるのに対し、60代が71%、70歳以上が62%。全年代を通じた投票率は56%。20代と60代との投票率の差は約30%以上の差がある。

選挙は、政策に地域や世代の声を反映する手段として重

要な役割を果たしている。若年層の投票率が高齢者層に比べて低いことにより、「若者の声が政治に反映されにくい」「若者向け施策よりも高齢者施策が優先される」ということが懸念されている。多様な世代の声を国や地方の政策に過不足なく反映させるためには、「若年投票率の向上」は欠かせない。

行政による若年投票率向上に向けた啓発と主権者教育

行政では、選挙管理委員会などで若者世代の政治や選挙の関心を高め、投票率向上に結びつけるために様々な取組を行っている。江東区選挙管理委員会でも、小中学校における選挙啓発ポスターコンクールや若者の投票立会人の実施に加え、区内の小・中・高校対象の選挙出前授業や模擬選挙、区内にある武蔵野大

学との連携事業協定を結び、ゼミの学生が、提案する柔軟なアイデアを選挙啓発事業、実際の選挙の啓発活動に取り入れている。

投票率向上に向けた行政による主権者教育の取り組みは、一定の評価はできる一方で限界がある。選挙管理委員会による選挙啓発も、学校教育の現場においても、政治的な中立が求められるため、特定の議員を呼んで、出前授業を行ったり、生徒が議員に話を聴いたりするなどの取組は難しい。

議員インターンシッププログラムによる、若者の政治体験

そこで、重要な役割を果たすが、議員インターンシップである。大学生や高校生の夏期・冬期休暇の期間を活用し、議員等と行動をとることににより、社会に対する視野を広げ、政治と社会のつながりを知ることができると期待されている。若者と政治をつなぐ活動をしているNPO法人ドットジェイピーなどが提供しており、私も10年以上学生の受け入れを行っ

ている。

インターンシップ期間中、学生は受入れ先の議員のもとで、政治活動の体験、議会見学・傍聴、視察や勉強会、地域のイベントなどの参加など様々な活動をとる。

コロナ禍においては、対面での活動に代わってオンラインによる勉強会や会合の参加など、活動スタイルも新しい



インターン生と鈴木綾子議員（右端）
オリンピック施設江東区の有明アリーナにて

生活様式に対応したものになっている。

ここ数年のインターン活動においては、「江東湾岸エリア見学」「豊洲市場の見学」「裁判所傍聴」「防災・清掃などの施設見学」など、地域の課題や社会問題などを知るための活動も取り入れている。

また、参加するインターン生が今後就職活動に備える必

要もあることから、「コーチング」や「社会人の体験談を聴く会」なども行っている。

議員インターンのメリットとしては、議員側は、若い世代の生の声を政策に反映することができると、若者と接することで新たな視点を得られることがあり、学生側は、政治に関心を持つことや、就職前に、社会勉強になる経験をしたということがある。

インターン活動を終了した学生からは、「地域を良くしよう」と頑張る議員の姿を見て政治の身近さを実感した」「投票に行こうと思った」「様々な人と会い、視野が広がった」という感想を頂くことが多い。

若者が選挙にいかない理由として代表的なものに「選挙に行っても何も変わらない」「政治について良くわからない」「投票の大切さがわからない」があげられる。こうした意識を変え、若者の政治参画を進めるためには、議員インターンシップ制度がさらに普及することが大切である。若者の政治参画を推進するため、私も議員として積極的に取り組んでいきたい。

【鈴木綾子プロフィール】

NTTドコモの法人営業経験を経て2011年から江東区議会議員。現在3期目。働く世代のワークライフバランス、ICTの活用、江東区の地域コミュニティ活性化などの活動に特に力を入れている。

<http://www.suzukiayako.com> [twitter:ayako_suzuki](https://twitter.com/ayako_suzuki)

超不平等は悪だ！ 大金持ちは悪だ！

大阪 馬場 正雄

所得の格差が拡大しているという。それに対して批判の声が上がらないのがおかしい。世界一の資産家イーロン・マスク氏は27兆円の資産を持ちこの度ツイッター社を買取り言論界にも影響を与えようとした。米大リーグの菊池雄星氏はブルージェイズ球団と3年契約で41億4千万円で契約した。平均年収14億円は狂気の沙汰だ、彼は90%ウクライナにカンパすべきだ。私は両者共に犯罪的だと断じている。米国民は我々が思っているほど豊かではない。貧しい人々もいっぱいいるが、開拓者精神国だから自由勝手な金儲けは野放しだ。かつて人類はこん棒で人民を差配し、その後は武力で支配者になり奴隷や農民を搾取した。近代は知略で金儲けを果たしてきた。現代に近づくほど露骨でなく上品に大衆から収奪する

ので批判にさらされない。庶民はITや広告料などで世界中から無意識に少額巻き上げられているので憤りが起こらない。彼らの収入・資産は間接的合法的に我々から獲られていることをもつと自覚すべきだ。青少年に夢を与える……と勝ち組の愚者がのたまう。冗談じゃない、幻想を与えているのだ。極々極々一部の大成功者の影に何万何十万の膨大な大変な数の家族が時間と費用を浪費し、或いは破綻したことか。努力を報いられたなかったか、人生の変針を余儀なくされた若者がいかに多いことか。自らの収入の少なさに自暴自棄になっている人も多くいることを分かってくべきだ。メディアが英雄として称賛するのはやめてもらいたい。成功者レベルがもっと多く輩出すれば良いが、超々成功者は不要だ。

金持ちがケシカランとは言わないが超金持ちは悪だと断じて良い。年収5千万、資産20億以上は徹底的に課税すべきだ。金融資産も課税を強化すべきだ。さすれば合法的に儲けたと豪語できない。『金儲けが悪いのですか？』聞き直った御仁がいたが、超金持ちは悪だと庶民は声を大にすべきだ。社会主義が起ったのは資本主義の不平等の反省からでもあった。

社会主義が敗れたことよって不平等を悪と叫ぶのを憚る気風ができたのは極めて無念なことだ。経済先進国を任じる日本ではコロナ禍で2000万以下の年収所帯が増え続けているのに、抜本的解決を求める声が起こらない。教育費5万円を税金を施しでごまかす程度だ。東京の最低時給賃金1041円では年収230万円にしかならない。貧困層底上げの経済制度に政治を改めるべきだ。近年露骨な言葉《金持ち》の代わ



超金持ちの邸宅は観て綺麗で気分が良いが、腹立たしい

りに柔らかない《富裕層》と自己責任であり、超大金持ちは彼等の能力・努力だと思わせるムード作りができていない。しかし、同じ人間で手取りで百人分以上の金を巻き上げるのは犯罪だと、99%の庶民は堂々と叫ぶべきだ。少年野球で雄星氏よりどれだ

け練習で頑張っても1千万の年収も無く、2DKの部屋で子供の教育費にさいなまれる人がいかに多いことか。色々な条件、環境がマッチして極々一部のラッキーな者が、実力と努力の何百倍の金を手に入れている。その半分でも庶民に回せばどれだけの人々の生活が楽になることか。アメリカ式の成功者はパラダイスはその裏にどれだけ多くの不幸者、失敗者を生んでいることか。金持ちも庶民の百倍で充分だろう。超高額所得者に課税を強化したら彼らの企業意欲を削ぐとしたり顔に指摘する者がいる。違う、超高額者にとつてもう実収入の多寡はそう問題ではない。経営意欲が彼らを働かせているのだ。庶民の所得を上げた方が遥かに経済活動が活発になるだろう。もう一つ言うなら、サラリーマンは所得の100%は税務当局に把握・課税される。が、金持ちはタックス・ヘイブンはじめ課税回避は、税金逃れは限りなくあるのを抑えるべきだ。野党も勇氣をもつて超大金持ち、超高収入を許す制度を批判してあるべき国の姿を示すべきだ。

ドイツ
滞在
半世紀

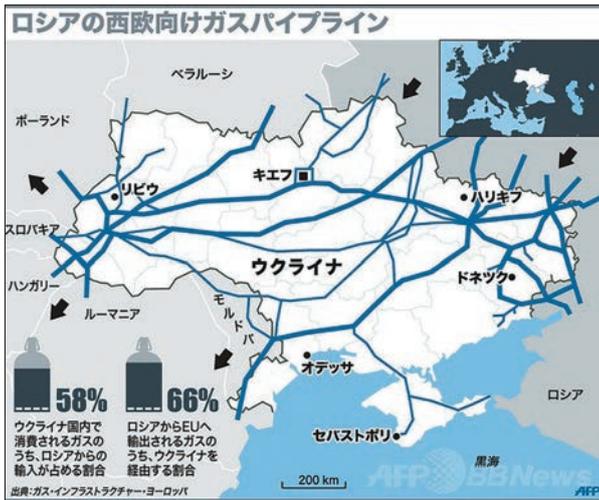
不連続掲載
NO.22

ノルドストリーム2

ドイツ・デュッセルドルフ市在住 後藤 昌三

永久に葬られた？
ロシア・ドイツ間の
パイプライン

ノルドストリーム2というのはロシアからドイツの北デนมールクに近いところにガスを送るガスパイプラインだ。そもそもそのウクライナでの戦争の発端は先般引退したアンジェラ・メルケル（CDU・キリスト教民主同盟）がコールに抜擢されて首相になる前にシュローダー首相（SPD・社会民主党）がロシアとの東西ドイツの統一等、協力の証の一つとして立案始めた

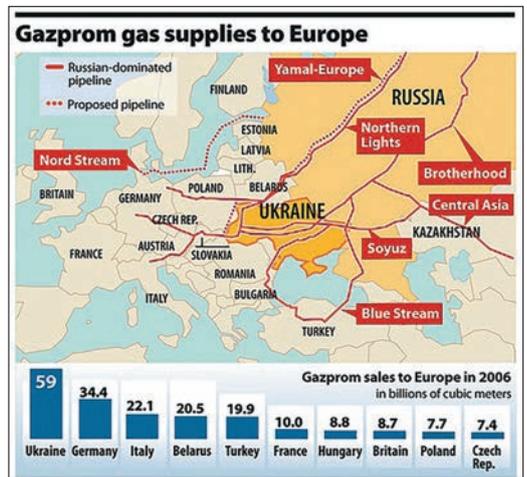


Gas Pipeline.

ものだ。その後首相がメルケルにかわり、下野したシュローダーはロシアのガスプロム公社の役員になった。かたやロシアはプーチンがペレストロイカ後ボスになった。その後北海のガスパイプラインは建設が進みあと一息でドイツ側のパイプとつなげるところまで来ていた。しかしメルケルの終わりごろからのガスパイプライン結合にNATO側から地政学リスクによる反対の声が高まり建設は中断された。この背後には添付地図を見てわかるように、現行のパイプラインを有するウクライナの利権の大半が、

一気に無くなるリスクがウクライナ側にある事が予想される。ロシアの方は、近隣諸国と同様にNATOに対する中立のバツファアール国家として、ウクライナを括り付け、ガス利権はドイツ直結で大半を取ろうとしたのである。これに対してウクライナのゼレンスキーはNATO参加を旗印にパイプライン利権の保持も計ろうとしているのである。背後には米国のエネルギー資源産業が跋扈しているはずだ。

これに対し、パーキンソン病でキレたプーチンは侵攻の手に出たのだが、これは逆にこのノルドストリーム2の完成を永久に葬りさる事になりそうだ。そしてロシアはウクライナのガス接続の保



Gas Ukr.

有権をプーチンの物にしようとインフラ破壊に出ている。しかしウクライナ側もこれは生命線であり投げ出せない。

かたやドイツの方は、メルケルのいたCDU党から、かつてのシュローダーのいたSPD党に政権が変わり、今のシュルツ首相になったので、これを機にガスプロムはシュローダーを重役に登用し昔の仲間のよしみでノルドストリーム2を前進させてくれぬかと思っている。しかし現シュルツ首相は前に進める気はない。しかしプーチンが憂さ晴らしがてらでウクライナ国民を殺戮するようでは、ドイツサイドも動けない。

ロシア侵攻が始まって2ヵ月が経過した。当初すぐに投降するだろうとプーチンは思ってたが、ゼレンスキーは頑張り。西側も武器を供給する。キープでの侵攻を諦め東部に兵を回し侵攻する。今日のロシアのニュースでプーチンは若者やメディアを集め、平然とこの侵攻の目的は親口のドンバス地方を解放するためだなどと口先三寸の説明をする。厳しい侵攻批判にあい、国内のメディア対策をするようになってきている。

片やドイツの議会では現与党の緑の党所属の外務大臣のベアボック（女性）は昨日ついに、ウクライナ問題は、これまでのメルケル前首相の間違った資源政策のおかげであるとぶち上げた。他方日本の方ははるかかなたの火事の見物のように、色々な「先生」がTVに登場し、無責任な論評を加える。日本の政治Leeveeの世俗さを匂わす。中には「宗教戦争」だと適当な事をいうものもある。それより日本には経済危機が迫っている。

ウクライナでは自宅を離れる避難者は1200万人を超えた。国民の4分の1が家を失うというのは、人類史に刻まれる戦争犯罪だ。私はこの間5年前よりロシア文化庁と提携をして日露双方で互いの映画を紹介したり、ロシア人

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第19話

ロシア・ウクライナ戦争中に国際映画を通じて 鉄のカーテンを開ける挑戦

刻も早く終戦してほしい。ところが、ウクライナ側も徹底抗戦の構えでどんどん武器支援を世界に求め、ロシアは攻撃をさらに強めて終わりが見えない。

日本は西洋諸国と足並みを揃え、金融制裁やウクライナへの自衛隊の物品協力などを行なっている。金融封鎖としてSWIFTからロシアを排除する、欧米企業がロシアから撤退すると経済制裁を行なっているが、結果一瞬ルーブルが紙屑になったものの、その後対ドル価値は戻り、実は自国通貨の暴落・円安が続いているのは世界中で日本だけだ。続く円

安、小麦粉などの食品価格高騰、で一人ハズレクジを引いた日本を尻目にアメリカは天然ガスをヨーロッパに売り、関連武器企業が大幅に儲け、GDPもコロナ前に戻っている。

もちろんウクライナ難民を受け入れることは意味があるし重要だが、本気で取り組むべきは自国防衛だろう。自国防衛のためには武器を、核兵

器をとやう話が多いが、私はむしろそれ以前、足元を掬われない、紛争を起こさせない国・組織づくり、経済防衛や日頃の歴史認識などが重要だと思う。

現在北海道のすぐ先にある北方4島では三千人規模のロシアの軍事訓練が始まり、北海道大演習場で自衛隊の戦車部隊の訓練がかつてない規模



で行われている。ロシアはウクライナの次は北海道をターゲットにしている。北海道はロシアにとつて凍らない港を有する魅力的な場所だ。

ロシアの保守系政党党首である国会議員のセルゲイ・ミルノフ氏は「ロシアは北海道を有する権利を持つ」と発言。2015年と2016年には日露首相の会談の中で、

モスクワから極東までロシアを駆け回るシベリア鉄道を北海道まで延伸したい旨をロシア側は日本に提案している。

プーチン大統領も以前「アイヌ民族をロシアの先住民族に認定する」と言う考えを2018年にモスクワでの人権評議会でも発表している。その当時の首相は安倍元首相。「ウラジミール君と僕は同じ未来

を見ている」なんてロシアにいい顔をしているあいだに、気がついたら北海道を取られちゃうよ。北海道を第二のウクライナにしないために、日本はもつと廃線の危機にあるJR北海道のメンテナンスを行い、もつとアイヌの人たちに寄り添うべきだ。日本政府は危機感がなさすぎる。2022年4月の最新でも地震で断線したJR北海道の修理費をJR北海道に負担させるとのこと。こんなことを続けていたら北海道の方やアイヌの方に「ロシアに面倒を見てもらったほうがまし」と思われてしまう。

北海道の開拓の背景には多くのアイヌ人たちの奴隷労働

と共に行われた。85年前、北海道大学は「彫りの深いアイヌ人は文化人類学的にはどこから来たのか」を研究するため北海道全土のアイヌ人墓地を掘り起こした。それらの遺骨は頭蓋骨と四肢部分が別々に置かれた。本来アイヌの風習では地元で一体一体を弔うとされる。ご遺体を実験動物として扱うような旧時代の感覚を悔い改め、その事実を全国民が知り、アイヌの方々にお詫びをするべきだ。

本原稿冒頭で私は今アイヌ人も登場する映画「歳三の刀」を制作している。函館で戦死したと言われている土方歳三がロシアへ渡るストーリーだ。2022年5月にはロシアから俳優監督ら7名を招聘し日本で撮影を行い、アイヌ団体の方にも関わっていただく。歴史の分岐点で、世界平和を希求するサムライ映画を多国籍で作ること。それは歴史や文化を学ぶ平和教育の場でもある。武器だけが自国防衛ではないのです。平和を作っていくための文化交流の先に全ての国地域が等しく尊重される社会が実現することを願っています。



工藤律子さん

「ひとりでやらなくてもいい」 市民として育つ場を提供するスペインの教育

工藤 律子 (ジャーナリスト)

ここ数年、教育関係の研究会に参加している。スペイン語圏の社会状況取材する、教育専門家ではない私が、なぜ？それは、今の日本の「教育」がとんでもなく不自由で差別的、人間の分断を煽るもので、その背景に社会のあり方の問題が横たわっているからだ。

2 020年秋、ユニセフが出した「世界の子どもたちの幸福度」に関する報告書が話題になった。精神的幸福、身体的健康、学力・社会的スキルの3つの視点から、先進38カ国の子どもの幸福度をランキングしたものだ。日本の子どもたちは、総合で20位、「精神的幸福度」では、下から2番目の37位だった。これだけ学力向上や高等教育が重視されているにもかかわらず、学力・社会的スキルにおいても、27位と振るわなかった。一方、私が市民による社会変革に注目しているスペインは、総合6位。精神的幸福度は、オランダ、キプロスに次ぐ3位だった。ランキングものはあまり好きではないが、この結果には少なくとも、

も、一つの現実が投影されていると感じる。

スペインでは、大勢の子どもが成長を見てきたが、彼らに共通するのは、日本でいう「自分でがんばっている」様子が余り見られないことだ。彼らの周りには、とにかく仲良く元気で自由に育つことが一番、という空気が流れている。

スペインの「教育への権利に関する基本法」には、こう書かれている。「すべてのスペイン人（およびスペイン在住の外国人）は、自らの個性を伸ばし、社会に役立つ活動を行なうことを可能にする義務教育を、無償で受ける権利を持つ」。さらに、「この法律は、自由と寛容性と多元性の原則に基づく共生のための規範である」。つまり、公教育は、学力向上のためのものというより、社会・経済的条件や宗教・言語・文化の違い、障がいの有無などに関係なく、すべての子どもが多様な人とすこし、いろいろな知識や文化に触れながら、市民として育つ場を提供するもの、ということだ。

マドリッド近郊の公立小学校に通う自閉症の少年の親は、普通校で学ぶ息子が、クラスメイトに助けられながら、少しずつ人との絆を築き、それを楽しんでいるようであれしいと語った。将来、たとえ「有能な人」になれなかったとしても、彼が社会に居場所を見出し、社会も彼をその一員として受け入れる土台が築かれていると感じるからだろう。少年には親友ができた友だちを理解することを楽しんでる。担任は、「学校は、知識を詰め込むことより、皆と協力して共に生きることを学ぶ場です」と言い切る。

本では、学校が「学力」という尺度で子どもを分け隔て、共に生きるチャンスを得る。少しでも変な子は、「特別な支援が必要。そのほうが本人のため」と決めつけられ、「一般社会」から引き離されていく。どんな子どもも「できる・できない」でグループ分けされ、多様な豊かさに触れる自由を奪われていく。すべては

経済効率、「商品としての人間」の価値を上げるためだ。その結果、一部の人間の商品価値は上がったとしても、社会全体は貧しくなり続ける。子どもが幸福ではない社会に、豊かな未来はない。

な

ぜ日本の子どもたちは、精神的に幸せではないのか？消えたい、と思う子がこんなにも大勢いるのか？それはきつと、常に自力で前へ進むことばかりを強いられ、時に「ひとりですらなくともいい。皆で何とかしよう」と、笑って語りかける大人が、あまりに少ないせいだろうか。何でもできる人間なんていないし、誰だつてひとりでは追い詰められてしまうことがある。そんな時、支え合

い、共に生きる豊かさを知らない子どもたちは、闇から抜け出すことができない。日本社会は今、すべての面において、「ひとりですらなくともいい」という声を必要としている。異なる者同士が対話を通して、支え合い、共生する道を探ってこそ、平和で心豊かな社会が築かれる。

口紅

石居 専子

群馬の田舎で、寒さと空っ風に打たれて育った私は、頬の赤さが暫く取れず、山猿のようにで恥ずかしかった。そのうえ、世間の事は何も知らない、井の中の蛙でもあった。

そんな私が、社会人としてスタートしたのが、東京駅から10分の京橋で、隣は銀座である。会社にはユニフォームがあったが、通勤に着る洋服に困った。暫くの間、短い期間同居した2人の姉から借りることにした。

20歳の誕生日に、すぐ上の姉が金のネックレスをプレゼントしてくれた。そして初めて口紅を買った。山猿は返還、色も白くなった私は、その口紅1本で、大人の仲間入りをした。当時はまだ他の化粧品を買う余裕はなかったの、その分若さでカバーした。ある時、退職した先輩のMさんが、化粧品品の販売員説明会に行くというので、付いて行った。説明をする係りの男性は、自分の母親がそのク

リームを使ったら、何日かで皺が消えたと熱く宣伝した。私は、ばかばかしくなって途中で帰った。Mさんは熱意のために、自分でせっせと買って、それを私にもくれた。

今の私は、化粧で皺も年も、隠せないが、口紅を付けた途端、顔色が明るく、活きた気として、ちよつと若返った気がする。

編集後記

▼ロシアがウクライナに侵攻して2ヵ月半。悲惨な戦争の凄まじさに心が悲鳴をあげています。過去の歴史に侵攻の根っこがあるとのこと。だからといって力づくで他国を侵犯し土地を略奪、人々の命を蹂躪することが許されていいわけがない。この動きについてさまざまな人が紙面に参加。わがCrossingの旗印である「枠にはまらず言いたいことをはっきり言う」そのままに、異なる立場

余録

前68号を発行後にその寄稿者から「知人がライフクロツシングは価値があるタウン誌だから、国会図書館に寄贈したらどう？」と言われたとのメールをいただいた。そういう方法もあるのかなとの思いで読ませていただいた。が、その日ある集会で司会者席から「今号は面白かったね。国会図書館に送ったら？審査があるらしいから議員さんに頼んだ方が採用されやすいかな？」と同じ日に言われたので驚い

た。それで知り合いの議員事務所に相談したら仲介の労を取ってあげるとのこと。本誌をお送りした。1週間ほどして「おめでとう、受入れてくれるそうだ」とのこと。創刊号以来のバックナンバーを揃えて国会議事堂隣の図書館にお届けした。誌面で図書館に収めていることを宣伝しても良いとの確認をしました。発行毎に2冊ずつ納本すれば京都の相楽郡の関西分館にもわれわれが、読者が別に図書館に行つて検索して見つけて読むことはないだろうから、ど

うってことはないのだが……。これまでの投稿者にお知らせしたら何人の方からお祝いの言葉をいただいた。「これまでの努力が認められたのですね」「おめでとう！」「図書館の内部を見学したことがあるが流石の設備だった。良かったね」「日本国が存在する限りライフクロツシングは図書館で保管されているわけだね」などの言葉をもらった。あの図書館の地下にドン色んな出版物が溜まって行つたら大変だなと心配もしています。

の多様な意見が紙上に展開されました。一方、これまでの世界の枠組みが足蹴にされ一変した今、ならば日本の行方は？との問題提起も。この機に乗じて改憲をもくろむ勢力もあり、不戦を誓った戦後の空気は風前の灯になつていくように感じますが、浮足立たずに、真摯に向かい合う時がきているのではないかと思ひもあります。今はただこれ以上の人命が奪われることなく一日も早い収束への兆しが訪れることを祈ります。

▼宇宙生命哲学者の伊藤俊

洋さん執筆の壮大な生命体の宇宙の話が佳境に入りました。宇宙その輪廻の大きいなるロマン、「われわれはどこへ行くのか」の視点、加えてジョン・レノンの「イマジン」が「宇宙生命哲学の精神に繋がっている」との示唆。その発想の面白さと豊かさが「生きる」日々の重さに爽やかな風を吹き込んでくれます。

▼登場いただいた方たちの健筆にも感謝。奥寺さんは「世の中には尊敬や評価を受けやすい仕事とそうでない仕事がある」と感じつつ、サン

デル教授やキング牧師の言葉に共感しながら軽貨物の配達に精を出し、「全ての人や職業に尊厳がある」とメッセージを発してくださいました。

▼油井さんの「憲法9条の世界史的意義」は前号の清水まり子さんの「生存権」と共に、私たちがぜひ知っておきたい現代史の原点です。このほかスペインの教育現場を紹介して下さった工藤さん、若者の政治参画を促すインタビューシツプについて鈴木さんからその取組みを紹介してもらいました。

ウクライナ問題を考える 「友愛外交」の発動を

（財東アジア共同体研究所理事長 鳩山 友紀夫）



鳩山友紀夫氏

連日のようにテレビでは朝からニュース番組のトップでウクライナ情勢が報じられ、犠牲者の多さ、戦場となった地域映像の悲惨さは眼を覆うばかりだ。その一方で画面は多大の人的犠牲を顧みることなく威圧的な態度を見せるプーチン大統領の表情を映し出す。

それだけ見ていると誰しも、悪いのはロシア軍とプーチン大統領で、国際社会が一団となってこの悪の帝国を封じ込めつつある。というような気分になるだろう。

しかし、この問題は冷戦構造の終焉、ソ連邦の崩壊、東欧革命の連鎖、ボスニア紛争など東ヨーロッパを巻き込んだ世界的な大動乱が作り出した構造的な歪みから派生している。

第二次大戦はナチス敗北により終局を迎えたが、アメリカと西ヨーロッパ諸国はソ連邦の拡大を軍事的に抑えるためにNATO（北大西洋条約機構）を作り、ソ連側は対抗して1955年にワルシャワ条約機構を設立した。

時間の経過とともに、社会主義圏の国家運営が悪化し、東欧における社会運動やチェルノブイリ原発事故などによってソ連邦は崩壊に追い込まれ、ワルシャワ条約機構も

消滅した。本来、対峙する相手が消失したのだから、NATOも解散すべきであった。また、ロシアは自国防衛の観点から、東西ドイツ統一の際などにNATOの不拡大を求め、NATO側もそれを了承したとされる。

しかし、現実には旧ユーゴスラビアで内戦が勃発すると、NATOはこの地に空爆を実行した。ウクライナでは親ロシア派とEU加盟を目指す勢力との間で、激しい政治闘争が頻発した。特にオレンジ革命と西側では称賛された政治闘争は武力を伴い、その結果成立した親EU政権はロシア系住民の多く住む東部への差別と圧力を加えた。2014年にはクリミア半島における騒擾から、住民投票によりクリミアが分離独立宣言しロシアに併合されると、ウクライナ政府は国際社会にその非合法性を訴えると同時に、ロシア系住民の多いドネツク、ルガンスク地域などに強圧的・差別的な統治をおこなうようになり、それに反発したロシア系住民の一部は武装し準軍隊な組織で対応するよ

うになった。

もう一つ大きいのはネオナチ的武装集団、アゾフ連隊の出現である。ナチス的、民族的差別的な過激政治集団はヨーロッパ各国で生まれつつあるが、中でもウクライナにおいてアゾフ大隊は政府のロシア系住民差別と制圧に乗じて勢力を拡大し、国軍とも協力関係を作って過激な軍事行動にできるようになった。アゾフ連隊によるロシア系住民の虐殺やテロはロシア政府に強い反発を生み、アゾフ連隊に対して行動制限を課さないウクライナ政府への批判は、やがて今日のロシアの軍事進攻の素地を作った。

問題なのは、ウクライナの背後にあるアメリカとNATOが、国力を回復し、エネルギー供給を梃子に西側に圧力をかけ始めたロシアの動きを阻止しようと、東方への勢力拡大に動き出していることである。それはロシアにとって国士がナチスによって蹂躪された苦い記憶をよみがえさせるものである。プーチン政権はそうしたウ

クライナ政府のロシア系住民への抑圧を牽制しようと、国境地域において軍事演習を繰り返し、ついに2月24日ウクライナ領内への軍事侵攻に踏み切った。そのことが今日のウクライナの惨状と悲劇を生みだしたわけであり、我々は断じてそれを是認も容認もすることはできない。

しかしながら、日本もアメリカやNATOの思惑に追随するだけでなく、平和憲法に具現化された平和主義精神にもとづいて、一刻も早い停戦と平和再建交渉をよびかけるべきだと思う。また今回の軍事衝突によって放射能汚染の脅威にさらされたチェルノブイリやザポロージャ原発占領に対する国際的な関心を受けて、日本は唯一の被爆国として原発事故の経験者として、積極的に和平交渉をよびかける資格を持っている。

私は長らく国家間の紛争を武力衝突ではなく、真摯な和解や交渉によって解決する「友愛外交」を主張してきたが、いまこそ日本政府そして民間の我々もそれを発動すべきだと考えている。